

第5学年 音楽科学習指導案

平成29年12月5日（火）第3校時

1 題材名 重なり合う音の響きを味わおう

2 題材について

(1) 題材にかかわる児童の実態

本学級の児童は、歌うことが好きな児童が多い。みんなで合わせることを心地よいと感じたり、さらには、リコーダーなどの楽器を演奏することもとても楽しみにしたりしている子供たちである。4年生の時に学習した題材名「木琴・鉄琴となかよくなろう」での教材名「はさみとき」の合奏では、主旋律であるリコーダーパートと簡単な和音構成（C・G7）できている木琴・鉄琴パートを全員が体験し、楽しんで学習を進めることができた。しかし、中には音楽に対する苦手意識をもつ児童がいることも事実である。そこで本題材では、誰もが演奏を通して和音の響きを味わえるよう、技能に関わるところを工夫して学習を進めていきたいと考えている。

(2) 本題材における指導

本題材では合唱や和音伴奏づくりの活動を通して和声の基本であるI、IV、V、V7の和音を感じ取ったり表現したりすることができるようにしたいと考えた。そこで、第一次では、三部合唱を通して、和音の響きに親しむことができるようにするために、まずは、旋律をしっかり歌えるように斉唱で練習し、音程をつかめるようにする。そして、全パートが歌えるようになったら、二部合唱、三部合唱へと進んでいきたい。第二次では、グループ活動を通し、和音の響きを味わいながら、曲想の工夫をしたり自分たちの思いに合った伴奏づくりをしたりしたいと考えた。その際に音色や音量のバランスを工夫したりすることが効果的に行える、アンサンブルオルガンを活用しようと思う。この題材を通して、和音の響きの美しさを味わい、また6年生で行う和音づくりの学習のきっかけになればと願っている。

3 題材の目標

和音の響きの移り変わりを感じながら演奏する。

4 教材について

○こげよ マイケル 長崎一男 日本語詞 スピリチュアル・長谷部匡俊 編曲

階名視唱でも簡単に音をとることができ、和音の響きを味わうことのできる教材曲である。三部合唱の導入として好適な教材である。

◎静かにねむれ 武井君子 日本語詞 フォスター 作曲 蒲田健次郎 編曲

緩やかな起伏のある旋律は、表情豊かで美しい。この旋律のほとんどは、1小節1和音の形を中心に構成されているので、和音の響きやその変化を感じ取りながら、旋律と和音のかかわりを理解するのに適した教材である。

5 学習指導要領の指導事項と【共通事項】ア・イの関連及び具体的な学習活動

指導事項	歌唱 エ 各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。 器楽 イ 曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。 音楽づくり イ 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくること。					
【共通事項】ア	和音の響き	拍の流れ	音色	音の重なり	強弱	速度
【共通事項】イ		全音符				
主な学習活動	・ハ長調の和声の響きや移り変わりを感じ取りながら演奏する。	・拍の流れを感じ取りながら、演奏する。	・曲想の違いが分かるように、音色を選んだりして表現の工夫をする。	・各声部の音量のバランスを考えて表現する。	・曲の山や終わり方など、強弱を変えて表現できるように工夫する。	・一応、基本の速度を決めておくが、グループの思いで速度を工夫することも良しとする。

6 題材の指導計画・評価計画（6時間扱い）

(1) 評価規準

	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	表現の技能
題材の評価規準	①各パートの異なる旋律に関心をもって歌っている。 ②友達と協力して和音伴奏に取り組むとともに、演奏に関心をもって活動している。	①主旋律や和音と合わせることで、音の重なり合う響きを感じ、バランスを考えた表現の工夫をしようとしている。 ②リズムの変化を感じ取り、自分たちの思いに合うような伴奏を工夫している。	①曲想を感じ取って、正しいリズムや音程で演奏している。 ②音色の特徴を生かしたり音量のバランスに気を付けたりしながら演奏している。
1時	①		
2時			①
3時	②		
4時		①	
5時		②	
6時			②

(2) 題材における指導計画・評価計画（本時5/6 ★が本時）

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動 ◎教材	・指導上の留意点 ☆評価規準 【評価方法】
第1次	◆和音の響きを感じ取って、歌うことができる。	◎こげよ マイケル

1	<p>○旋律の特徴や和音の響きを感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CDを聴き、曲の感じをとらえる。 ・曲想を感じ取って、主旋律の階名唱や歌詞唱をする。 ・3つのパートの旋律を階名唱し、鍵盤楽器で演奏する。 ・互いの声を聴き合いながら3つのパートを合わせて歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・斉唱と合唱が交互になっていることに気付くようにする。 ・3つの音の重なりが和音になっていることに気づき、それぞれの響きを確かめる。 ・互いの声を聴き合い、音の重なりを感じるようにする。 <p>☆関①【活動観察・演奏聴取】</p>
2	<p>○三声の響きを味わって合唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各パートを再度練習して、音程を確かめる。 ・斉唱部分と合唱部分に響きの違いや和音の移り変わりを確かめながら合唱する。 ・グループごとに発表し、互いに聴き合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人でも、グループでも確実に音程がつかめるようにする。 ・各パートの音量のバランスに気を付ける。 ・和音の移り変わりを感じながら、響きのある声で歌うように促す。 ・互いに聴き合って歌う楽しさを味わうようにする。 <p>☆技②【活動観察・演奏聴取】</p>
<p>第2次 ◆旋律に和音と低音のパートを加え、重なり合う響きを感じ取ったりして、表現を工夫する。</p> <p style="text-align: center;">◎しずかにねむれ</p>		
3	<p>○曲想を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴いて曲の感じをつかむ。 ・伴奏に合わせて主旋律を歌う。 <p>○主要三和音について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・I、IV、VとV7の和音について知り、和音の響きの違いを感じ取る。 ・各小節に合う和音を聴き分け、楽譜に和音記号を書き込む。 ・グループごとに役割（パート）を決め、主旋律と和音伴奏を合わせて演奏する 	<ul style="list-style-type: none"> ・3段目に曲の山があることや、2段目と4段目が同じ旋律になっていることに気づき、フレーズを意識して歌うようにする。 ・気持ちを込めた歌い方を工夫するように促す。 ・I、IV、VとV7の和音を提示し、和音の響きと楽譜上の表記や和音記号と結び付けて理解できるようにする。 ・初めて学ぶ記号なので、一つ一つ響きを確認しながら書けるよう、教師と一緒に丁寧に進める。 ・全音符について知る。 ・へ音記号の読み方を確認する。 <p>☆関②【活動観察】</p>
4	<p>○和音伴奏に親しみ、音の重なりを感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主旋律と和音と低音のパートを合わせ、全体の響きを感じ取る。 ・グループごとの演奏を聴き合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・和音の移り変わりを確かめながら練習するようにする。 ・和音と低音は、全音符と2分音符しか使われていないことを確認する。 ・拍のながれ、音のバランスに気を付けて演奏するようにする。 ・聴き合うことで、他のグループのよいところに気付くようにする。 <p>☆創①【練習中の演奏聴取・発言内容】</p>

<p>5 ★</p>	<p>○主旋律に合う和音伴奏を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに和音伴奏（低音と和音部分）を工夫する。 ・音色を工夫する。 ・音量のバランスに気を付けて演奏する。 ・曲の始まり方、終わり方を工夫する。 ・互いに聴き合い、修正点を見付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入でのリズム遊びに使っていたリズムを利用することを確認する。 ・様々なリズムパターンを試す中で創作の意図を固め、グループで表現したい「しずかにねむれ」となるようなリズム伴奏を考える。 ・音色の工夫は各グループ3種類にする。 ・主な旋律と、伴奏に当たる和音と低音の音量のバランスに気を付ける。 ・始まり方と終わり方の例を聴かせる。 ・グループの表現したいイメージに合っているか、確かめながら練習する。 ・感想を付箋紙に記入させる。 <p>☆創②【演奏聴取・練習態度・発言内容】</p>
<p>6</p>	<p>○グループごとに発表し、よさや美しさを感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工夫した点や意図がわかるように演奏する。 ・自分の言葉で友達の演奏のよさを表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聴いている人に工夫した点や意図がわかるように伝えてから発表する。 ・互いの発表を聴き合うことで、伴奏づくりのよさや面白さを味わう。 <p>☆技②【演奏聴取・発言観察・付箋紙への記入文】</p>

7 本時の学習指導

(1) 目標

和音伴奏を工夫して、アンサンブルを楽しむ。

- (2) 本時で主に扱う [共通事項] : ア 和音の響き、音の重なり、拍の流れ、音色、強弱、速度
イ 全音符

(3) 展開 (5/6時)

○学習内容・学習活動	・指導上の留意点 ☆評価規準【評価方法】	欄
<p>○学習の雰囲気をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズム遊びをする。 ・「静かにねむれ」演奏する。 <p>○本時のめあてを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい雰囲気になるように、リズム遊びをする ・リズム遊びをすることで、和音伴奏に利用できることを意識させる。 ・本時の学習につながるよう意識させる。 	<p>8</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">和音伴奏を工夫してつくろう</div>		
<p>○グループごとに課題を明確にして、練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの思いに合った伴奏にするた 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループとしての前時までの活動を振り返り、本時の学習の見通しやめあてがもてるようにする。 ・リズム遊びに使っていたリズムパターンを利用することを確認する。 ・様々なリズムパターンを試す中で、グループで 	<p>25</p>

<p>めに、グループで相談しながら練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> *主旋律とリズム伴奏（和音）、低音に合うような音色の工夫（グループで3種類の音を選ぶ）をする。 *主な旋律と、伴奏に当たる和音と低音の音量のバランスに気を付ける。 *思いが伝わるような速さや強弱を工夫する。 <p>・始まり方と終わり方の工夫をする。</p> <p>○互いの演奏を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次の時間の発表会に向けて、よいところや修正点など気付いたことを付箋紙に書く。 <p>○本時の学習状況を振り返る。</p>	<p>表現したい「しずかにねむれ」となるようなリズム伴奏を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音色の選択は、①主旋律②和音③低音の役割を意識できるよう3種類と限定する。 ・リーダーを中心に練習や話し合いを進め、徐々に創作の意図を固めていく。また、言葉でイメージを伝え合うなどしてグループで表現したいイメージを共有し、それに合った表現を音で確かめながらつくり上げていくようにする。 ・始まり方と終わり方（終わった感じ）を教師が演奏して聴かせる。 ・自分たちの考えた伴奏に合うように、始まり方と終わり方を工夫するように伝える。 <p>☆リズムの変化を感じ取り、自分たちの思いに合うような伴奏を工夫している。</p> <p>創②【演奏聴取・練習態度・発言内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・付箋紙をもとに次回は練習し、発表を行うことを伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ・本時の取組みのよさを称賛し、次時の活動の意欲につなげる。 	10
--	---	----